

滝沢パークタウン自治会

滝沢パークタウン自治会は平成 25 年度に鶴飼西自治会から分離独立。滝沢総合公園に隣接する住宅団地で 185 世帯の小さな自治会である。地域の特性を生かした事業に日々取り組んでいる。

親睦を深める夏祭り

夏祭りは文化部が主催となり、全部会が一丸となって行う。大人だけでなく、子どもたちも役割を担っており、地域の中学生在が販売やごみ収集、小学生や幼児の補助等を担当している。また、輪投げ等のゲームは中学生と老人クラブが協力して行っており、世代間交流の場にもなっている。祭り内では 1 枚 50 円のお買物券を発行。小学生には 1 人 300 円分ずつ配布しており、小さな子どもが財布を広げずに買い物ができる安心感と地域のお祭りを通じて安全にお金の使い方を学ぶことができる仕組みができています。

祭りのメインである流しソーメンはパークタウン自治会分離前から納涼祭として行われてきた 20 年以上の伝統があるイベント。開始のずっと前から子どもたちが集まり始めるほどの盛況ぶり。ラストは子どもたちの花火で締めくくる。

新型コロナウイルスの影響で令和 2、3 年度は中止となったが、終息後は子どもたちが楽しめる場を途絶えさせないため、活動再開を目指す。



夏祭り恒例の流しソーメン

ごみ減量化の取り組み

滝沢パークタウン自治会はごみ減量化に力を入れている。この一環として行われているのが資源回収の支援である。毎月指定された日の朝に、空き缶や新聞・段ボール等の資源ごみを各家庭玄関前に置くと、自治会内の老人クラブ「シニアパーク」が車で回収し、自治会で 3 棟所有している資源回収倉庫に運んでもらえるという取り組み。束になると重い新聞紙や雑誌は運びづらく、可燃ごみにされがちだったが、この取り組みから分別が積極的に行われ、ごみ減量化につながっている。

総合公園の美化



小学生による植樹会

滝沢総合公園に隣接する団地という特性から、自治会・市・市体育協会と公園管理活動支援の三者協定を締結し、自治会の有志が草刈りや花壇整備等、総合公園の維持管理と地域づくりの推進に取り組んでいる。そのほかにも伐採・小枝処理や花火大会後の小・中学生も交えたごみ拾い、小学生による植樹会など親子で地域の自然の良さを感じられるような環境美化活動を行っている。



左から藤原治氏(事務局長)、勝又敏之氏(前自治会長)、山本良一氏(自治会長)、取材時撮影